

## パーカッション

# Percussion

平子久江 ひらこ・ひさえ



【出身】 国立音楽大学  
【所属】 シエナ・ウィンド・オーケストラ  
【趣味】 ガーデニング、カリグラフィー、カルトナーージュ、チョコレート菓子作り、散歩  
【血液型】 O型  
【星座】 いて座  
【読者にひとこと】 日々楽しく！  
【手紙の送り先】 BJ 気付

### 鍵盤打楽器の具体的な話をします。 まずはマリンバから！

マリンバは鍵盤打楽器でいちばん大きな楽器、女王とも言える存在です。音域はメーカー等によって様々ですが、4オクターヴのC-Cのものから、A-C、F-C、E-Cなど4オクターヴを超えるもの、そして5オクターヴのC-C、F-Fや、さらにC-F、A-Fなど5オクターヴを超える大きなものもあります。また最近ではソロ楽器として演奏されることも多いですが、そのときにはマレットを片手に2〜3本、両手合わせると計4〜6本持つこともあり、マレットの幅を広げたり狭めたりを、持っている手と支えている指で調整しながら演奏します。

#### ■どこを弾くか？

まずは片手に1本ずつマレットを持ち、音板を弾く位置を確認してみましょう！音板を真上から見ると、【図1】のように細長い板のようですが、真横から見てみると、【図2】のように中央が弓状にへこんでいます。この部分の下にパイプがあり、音を共鳴させることによって美しい響きが生まれます。つまり、このあたりが最もきれいに響くことにな

るので、**基本的には音板の真ん中(①)を弾きます。**

しかしマリンバは音板が大きく、次の音に移る物理的な距離が長いいため、速く複雑なパッセージを弾く場合や4本マレットで音をとる

際にどうしても届かない場合、**黒鍵にあたる音**

【図1】



【図2】



【譜例1】



【譜例2】



【譜例3】



板に関しては、①の次に響きのよい②の位置を弾いてもよい場合があります。それにより移動距離が縮まるので、よりスピーディに弾けて、また、複雑な和音もつかみやすくなります。ただし①と②の響きが微妙に違うので、両者の響きが揃うよう自分でコントロールをする必要があります。また、音板をつなぐひもが通っている部分は響きがないので、この上は弾かないように気をつけましょう。

#### ■ではスケール(音階)の練習から

まずはC-dur(ハ長調)【譜例1】から。

- ゆっくり(♩=60くらい)から始め、一つひとつの音をよく鳴らし、音を弾く位置を確認しながら、粒をそろえて弾けるようにしましょう。
- 少しずつテンポを速くしていき、長いフレーズを感じながら、全部の音の響きを同じように響かせていきましょう。
- 慣れてきたら、弾く位置を確認しなくてもスムーズに弾けるようにし、♩=160以上でなめらかに弾けるようにしていきましょう。

これらができたら、アルペジオ(分散和音)の練習も加えます(【譜例2】)。ここでは音の間隔がとびますから、一音一音のマレットを当てる位置にいつそう注意をはらいます。弾く音すべての音板の真ん中にマレットを当てられるように、やはりゆっくりから音の粒&響きをそろえて練習します。また、片手ごとに見た場合、音板に当たるマレットの着地から次の音への着地まで、点と点を結ぶ横の流れを大事にしなが

ら、なめらかに弾けるようにしましょう。スケールもアルペジオも、一音一音を“叩く”とか“打つ”という感覚ではなく、ピアノでス

ケールを弾く感覚と同じように、流れるように弾けるといいですね。

C-durできちんと弾けるようになったら、a-moll、F-dur、d-moll、B-dur、g-moll……と、平行調でbをひとつずつ増やしていきます。bが6つのes-mollまでできたら、次は#5つのH-dur、gis-moll、E-dur、cis-mollと、今度はひとつずつ#を減らしながら、最後はe-mollまでの全調を練習しましょう。このとき、指で弾くピアノと違ってマリンバの場合は黒鍵と白鍵の距離が大きいため、前後の動きに気をつけて弾かなければなりません。またこれらの他に、鍵盤を端から端まで使った半音階の練習もしてみましょう(【譜例3】)。

#### ■マレットの種類と選び方

マリンバのマレットの芯の材質はゴムがほとんどで(プラスチックや木のものもあります)、その上に毛糸や綿糸などが巻かれています。そして毛糸の太さや巻き方、芯のゴムの硬さや重さによって音色は変わってきます。柄も籐のものや木のもの、またその長さも38〜42cmなどいろいろありますが、先月号で述べたように、曲の中で出したい音色感を自分の中に持ち、曲によって、出てくる場面によってマレットを選べるように、少しずつでもそろえていくようにします。最初のマレット選びに困っているときは、まずはミディアム、ハード、ソフトの3種類から揃え、そこにミディアムハード、ミディアムソフトなどを加えていき、さらにベリーハードやベリーソフトへどんどん広げていくとよいでしょう。選ぶときのポイントです。

- 左右のバランスのよいもの
- 振ってみたときに、柄のしなり方や重心のかかり方が左右同じもの
- 楽器を鳴らしたときに響きが同じもの  
来月はさらに効果的な練習方法と、ピプラーフーン、シロフーン、グロックンシュピールなどにも触れてみたいと思います。